

かせぐみ・そらぐみ クラスだより 9月

2022年9月30日 円町まぶね隣保園

9月も終わりを迎え、少し肌寒い日も出てきて秋が来たと感じさせられますね。各クラスで運動会ごっこも始まり、子どもたちと一緒に様々なことをしてきました。来月の運動会に向けて一人ひとりが様々な思いを持っていると思います。季節の移り変わりを感じながら、運動会本番が迎えられるように楽しみに待ちたいと思います。

かせぐみ



◎ こんたのおつかい

「こんたのおつかい」という絵本を読み、ごっこ遊びを楽しんでいる子どもたちです。こんたはお母さんに、夕ご飯のしほり寿司に使う「おあげ」のおつかいを頼まれ、とんりのお金を持って出立します。途中、「はよみち」と「もりのみち」の分かれ道があり、冒険心からお母さんにはもも行てまいけいといわれ、はよみちへ進んでしまいます。暗くて臭いの悪いもりのみちへ進んでいくと天狗も鬼、おばけも怖いのが次々出てきます。必死に進んでおあげ屋さんにようやく到着！買物のことを忘れたように「おあげ、おあげ…」と繰り返していたこんたですが、「おあげ、おあげ！」という声が、「おあげ、おあげ！」と聞こえ、おあげ屋さんは大笑い。帰りは「はよみち」を通り、帰るより早く声がかけてもらい、無事に「おあげ」を買って帰ることができたというお話をします。運動会では、子どもたちが主人公の「こんた」になりきって、ミニ竹登り、月形まぶね様と身体を動かす遊びを楽しみながら、おあげ、おつかいに行くという競技をします。きつねの耳ととんりのお金などを制作中で、はよみち、はよみち、お話の中に入り込んで、遊んだりする楽しさをさらに感じている様子の子どもたちです。夏前から楽しんで竹登りをする姿や、運動会遊びも経験を重ねていくことにより、一層楽しむ姿が見られます。元気いっぱい身体を動かすことが楽しいこの時期に、ごっこ遊びのお話の中に入り込んで遊ぶこと、身体を動かして遊ぶ楽しさを競技の中で感じられればと思います。運動会当日は、運動会ごっこの時は違う雰囲気や緊張感もあり、いつもはスムーズに出来るところが出来なかったり、難しいと感じて自信がなくなったりと苦戦する姿もあるかもしれませんが、コロナの影響もあり、かせぐみの子どもたちにとって、今年が初めての運動会であるので、ありのままの子どもたちの姿を受け止め、失礼してしまいたいと思います。友だちと一緒に参加すること、お話の方にも見とれらる喜びを感じて楽しんでほしいと思います。

◎ やってみよう！

「今日は誰のお当番？」と「その次は？」とお当番が回っていくのを楽しんでいる子どもたちです。朝のお集まりでは保育者がお祈りをしていたところから、取っ掛かいたい様子はありましたが、お当番の子どもが「お祈りしてみよう！」とお祈りする場面が見られるようになってきました。それ、たより組に憧れがあり、「そらぐみさんみたい」「たより組さんみたい」と聞いています。それ、たより組は汚い物袋に入る服を畳んでいるので、「かせぐみもやってみよう」と声をかけると「やっ！」「できるぞ！」と意欲的な子どもたち。「お母さんびっくりするかな！」と一枚一枚丁寧に畳んでいきました。畳めたことが嬉しくてすぐに、それ、たより組にも「おまかせ！」と見せに行っていました。生活の流れにも慣れ、身の回りのことを自分でできることや、友だちのことも意識が何くようになってきました。子どもたちの意欲を大切に、「自分のことは自分でできる」達成感や自信を積み重ねていけるよう見守っていきたいと思います。

そらぐみ

今月から運動会ごっこを中心にして活動してきました。日頃から走ったり、動くことが大好きな子どもたちが以前からしてきた運動あそびの中から鉄棒や一本橋、四つ這いで棒の上を歩くことなどをすることにしました。中でも三輪馬は、4月から園庭あそびの中で始めていき、今では名人乗りや友だちと手を繋いで乗る姿も見られるようになってきました。たよりぐみの子どもたちに教えてもらったこともあり、こんなふうに乗ってみたい、できたら嬉しいという気持ちが見られる一方で、出来ないと感じてしまったり、自信がなくなったりで、活動に参加してもすぐに練習をやめちゃう子どももいました。そんな時には無理には誘わず、子ども自身が出る気が出てくるまで様子を見てみることにしました。何回か練習をした時に、その自信が持てなかった子どもの中から自分で練習しようとしている姿がちらほら見られるようになってきました。そこをチャンスとし、保育者と、または友だち同士と一緒にする中で、壁や手をもちながらではありますが、自分から一歩踏み出すことが出来るようになってきました。「すこいやん！」とみんなの声にすこく嬉しそうでした。それから少しずつ自分で一歩ずつ歩こうと頑張れるようになってきました。出来る出来ないに関わらず、頑張っている子どもの気持ちを大事に受け止めていきたいと思っています。

また、リレーも遊びの中で同時にしています。走り始めたところはバトンを次の人に渡したら、もらった人はそのまま立ち止まって「よーいドン」のかけ声を待っている姿が見られました。そこで毎日、夕方屋上で水やりの後に友だちとハイタッチしたら走るという遊びをしてみました。すると、少しずつリレーの形になってきました。バトンを渡す際にはまだ落としてしまったり、自分の次に渡すの誰だったかな？と悩んでいるところもありますが、バトンを通して友だちとの繋がりを感じられたいなと思います。